第１回

～洋書絵本の専門店が贈る～

『のんびり洋書めぐり』

Ehon House

（株）岩崎書店 絵本の家事業部 英語教育担当

舘野佐知子

ようこそ絵本の家へ

山手線目白駅の改札を出て、目白通りを学習院大学に沿って歩いていくと、7～8分のところにあるのが絵本の家直営店だ。目白通りと明治通りが交差する千歳橋の近くにあり、都電荒川線や副都心線の雑司ヶ谷駅からは徒歩3分ほど。学校が多い地区なのだが人で混雑するようなこともなく、のんびりとした雰囲気は絵本の家にとてもあっていると思う。（写真①）

株式会社絵本の家は1984年の設立で洋書絵本を専門とするちょっと珍しい輸入・卸業社だが、2020年１月からは株式会社岩崎書店の絵本の家事業部として生まれ変わった。直営店（写真②）にはかわいらしい木目調の棚が新しく置かれ、岩崎書店の子どもの本も仲間入りして来る人をより楽しませてくれている。

私が絵本の家に最初に入社したのはもう25年以上も前。その頃は仕入れや海外交渉の担当だった。夫の転勤で東北方面を回り、また埼玉県へ戻ってきたのが9年前。震災の年だ。そうして、再び絵本の家に入れてもらい、今は『英語教育担当』という少し堅苦しい肩書なのだが、簡単に言うと『英語を学ぶのには絵本が最高！』という事を広めるとても楽しい仕事に就いている。

なかでも、小学校や中学校の図書館でぜひ子どもたちに見てほしい洋書絵本を集めたカタログ、『英語の本棚ファーストステップ』（2018年度版から）の制作は、絵本を中心にいろいろな人と関わる、私にとってはご褒美のような作業だ。2020年度はいよいよ小学校でも英語の教科化が始まるので、授業でも読み聞かせでも楽しめるような洋書絵本についての関心がますます高い。教育の現場ではとても緊張感のある年だと思うのだが、そんな時こそ英語が少しでも身近に感じられ、才能あふれる画家たちの挿絵が楽しめる絵本は子どもたちにたくさんの夢を与えてくれると信じている。このカタログに掲載する絵本を集めた棚（写真③）があるのだが、絵本で英語を再学習したいという一般の方にも隠れた人気があり絵本の奥行きの深さを感じる。

①

お勧めの散策場所、雑司ヶ谷鬼子母神堂。参道に一歩足を踏み入れるだけで、時代をタイムスリップしてしまったような気持ちに。

②

有名な鬼子母神堂から少し足をのばせば、絵本の家のシンボルともいえるロイヤルブルーに縁どられた店構えが見えてくる。

■直営店所在地：東京都豊島区目白 1-7-14 みさとビル 1F

■営業時間：月～金 12:00 ～ 18:00 / 土日祝 11:00 ～ 18:00

③

おすすめ本ぎっしり！

カタログ『英語の本棚ファーストステップ』と、カタログ掲載の本を集めた本棚。毎年フレッシュな作品を追加している。

※4月から新カタログにあわせて模様替えします。最新情報は下記をご確認ください。

絵本の家の日曜日

さて、色々と変化のあった絵本の家と直営店だが、「ゆっくりした時間の流れだけはかわらないなあ～。」と日曜日にお店番をしながらつくづく思う。今日は晴れで店内も明るい。近くの大型電気店で購入した CD プレーヤーからは英語の童謡が繰り返し流れてくる。

なぜか急に曲の歌詞を見てみたくなったので CD 付属の冊子絵本を手に取り、おおきなピーターラビットがいる窓際のカウンター席に座る。ここはちょっとした学習コーナーで、音声ペンで読むタイプの絵本などを体験できる家族連れに人気の場所だ。（写真④）

一昨年まで、幼児とママたちの英語のレッスンにお店を使ってくれる先生がいて童謡もよく歌っていた。先生のレッスンではメロディーをつけた絵本の読みきかせも楽しく、エリック・カールの大型絵本などは迫力があり子供たちを惹き付けるので、読み聞かせでは人気だった。絵本の家には海外の版元ではすでに絶版となってしまった大型絵本もいくつかあるので貴重な品揃えだと思う。（写真⑤）

さて、店内に誰もいないので声に出して歌を練習してみると自分でも驚くほど呂律が回らない。英語の上達には英語を話すための口の筋肉を鍛えなければならない、という内容の記事を読んだことがあった。なるほど、日本語にはない音を実際に発音するには、かなり一生懸命に口を運動させる必要があるのだ。頭の中でならちゃんと歌えているのに……。声に出してみることの大切さをあらためて実感。たまにはこうして英語の童謡を歌うトレーニングもしようと心に誓う。

休日のお店番はギフト需要でラッピングを頼まれることが多いシーズンでなければなかなか楽しい。ワゴンのセッティングや棚のほこり払いなど開店に必要な準備を済ませたら、おおよそ４０００点の絵本がならぶ店内をぐるりと見渡してみる。今日はどんな一日になるのだろうとワクワクする瞬間だ。絵本に囲まれて過ごしながら、気になる絵本を実際に手に取ることができるこの空間は何物にも代えがたい。

絵本の家のみどころ、いろいろ！

絵本は好きという方や楽しいし癒されるという方は多いと思う。どんな絵本が好きかというのも十人十色。だから直営店では心の赴くまま自由に絵本を楽しんでいただきたいが、何せ陳列している絵本の数が多い。そこで絵本の家直営店の見どころを少しずつご紹介しようと思う。（写真⑥）

① いつも新鮮！平台へどうぞ。

ほぼ毎月違うテーマに沿った絵本が並べられている平台が2台。これまで「絵本で世界を知ろう」、「おじいちゃんとおばあちゃんの絵本」、「新年に楽しみたい（ねずみの）絵本」、などが企画され今は「イースター」と「ホワイトデーギフト」がテーマだ。（3月）。平台の良いところはスタッフでも驚くような掘り出しものの絵本が並ぶところで、英語版だけでなくその他の言語の絵本、例えば、フランス語やドイツ語、スウェーデン語などもピックアップされたりするので面白い。本屋さんの平台というとふつう、今売り出し中の本を何冊も積んで並べるイメージがあるのだが、絵本の家の場合は逆で在庫が少ない本や一冊だけしかない本も多い。「この前平台にあった本が欲しいのですが」というお客様のご要望に

大迫力！

おおきなピーターラビットがお迎えしてくれる窓際には、音声ペンのデモ機など、ユニークな教材が。

クラスでの読み聞かせなどで大人気の大型絵本。

新しい仕掛けが豊富な幼児向けから、アートや科学、文学といったおとな向けの洋書まで。4000 冊の蔵書がならぶ店内。

も時折沿えないことがあり、再入荷するとしても1か月半以上は先になってしまうというのが洋書の常で申し訳ない気持ちになる。不便だなと感じる方も多いと思うが、そんな絵本たちが平台という表舞台に立ったことをぜひ一緒に楽しんでいただきたい。（写真⑦）

② 初めて洋書絵本を手に取ってみようという方へ

洋書の書店はなぜか少し敷居が高い。絵本とはいえ英語で読むのはちょっと億劫だなと感じていたら「小学校の国語教科書に取り上げられた絵本の原書コーナー」がお勧めだ。英語版と日本語版の絵本が仲良く隣同士に並んでいるところがこの棚の最大の特徴で人気が高い。

絵本の家のスタッフはきっとみんな英語が得意なのだろうと思われるかもしれないが、実は英語の勉強は少し苦手と感じているのが本音だ。でも、英語の絵本を読んで楽しむことは参考書などで英語を勉強するのとは全く別でとてもシンプルだと思う。英語で書かれた文章の一語一句をすべて理解できなくても、想像力を膨らませ心を自由にして挿絵を眺めていると、ストーリーがどんどん体の中に入ってくる。細かい心情まで感じ取ることができる。

それでもやっぱりもっときちんとお話を知りたいという場合には、英語版と日本語版の読み比べがとても有効だ。

例えば、レオ・レオニの“Swimmy”（日本語版は『スイミー小さなかしこいさかなのはなし』）は、「英語版がある！」と、懐かしい友達に会った時のように目を輝かせて手に取る人が多くてこちらもうれしくなる。確か次男が小学生の時、学習発表会で子供たちが演じていたのがミュージカル調の『スイミー』の劇で、海の中のくらげや小さな魚たちが舞台ではまるで花畑にさいた色とりどりの花のように見えた。自分だけ真っ黒だったスイミーが、「ぼくが目になろう」といってみんなで大きな魚になって泳ぐ時の名ゼリフ。英語版では“I'll be the eye.”で、こんなことも子供たちにとっては大発見だったりする。レオニのアートワークもぜひじっくりと楽しんで欲しい一冊だ。

アーノルド・ローベルが描く“Frog and Toad”（がまくんとかえるくん）のユーモラスな友情物語は、一つひとつの文章が完結で短く英語でも読みやすい作品だ。国語の教科書に掲載されている“The Letter（おてがみ）”が特に有名で、大学生くらいの男の子のグループが入ってきても必ず手に取るところをみると、みなの心の中にいつまでも生き続けるお話だというのがよくわかる。その他、バージニア・リー・バートンの“The Little House”（日本語版は『ちいさいおうち』）などだれでもよく知っていて世代を超えて楽しめる絵本に出会えるのがこのコーナーだ。

洋書絵本の専門店として絵本の家が充実しているのは実は本だけではない。絵本の家にはなんと絵本がモチーフの、ステーショナリーを中心としたオリジナル雑貨があるのだ。最も新しい商品は『バージニア・リー・バートンのグッズ』（写真⑧）で一筆箋やブロックメモ、クリアファイルなどもあるのだが、人気の ROOTOTE 社製のトートバッグはまた格別だ。レオニの作品やがまくんとかえるくんのポストカードなどもあるので、ぜひこんな雑貨で一息ついてはいかがだろうか？

気が付くと外がだいぶ暗くなっている。日がのびたと思っても閉店まで明るい季節までにはあと数か月、そろそろ店じまいの時間だ。「今日も楽しい時間をありがとう！」とお店の看板を Closed にする。

次回のお店番はいつだったかな？

⑦

クリスマスやバレンタインといったシーズンものから、おじいちゃんとおばあちゃんの絵本など、個性的なテーマも楽しい平台。

⑧

ちいさいおうちの作家、バートンのオリジナルグッズも発売中！ オンラインショップは http://ehon-house.com/